

第6回 伝統構法の位置づけはどこに？

「木造軸組構法の近代化」

「耐震建築問答」(昭和八年)には、大工たちが筋違を入れることに大きな抵抗を感じていると書かれていた。すなわち、その大工の立場からは、筋違の入る軸組構法は伝統的木造構法とは相容れない構法と言うことになるだろう。その抵抗感の内には、伝統的軸組への信頼、その水平垂直材の軸組に斜材である筋違を付けることを技術の未熟さと感じるような大工としての矜持、水平垂直の軸組から成る伝統的真壁に対する美意識、近代化過程の中での大工の立場に対する危機意識など、様々な思いが絡み合っていたことであろう、と近刊「木造軸組構法の近代化」の序文にある。

伝統構法とはどのようなものなのかを考えると、明治以降の西洋からの技術導入が、それ以前の構法にどのように影響を与え、本来培われてきた日本の木構造の技術がどのように変化し、どのようなものとしてその継続性をみてとれるのか。現在このことについての評価が十分されているとは言えない。今回の勉強会では、江戸の技術から、明治以降の西洋技術の導入に伴う現在の在来工法の成立過程において、日本の木造軸組構法がどのような展開を見せてきたのかについて著者である源愛日児氏から講義いただき考えてみたい。



中央公論美術出版
平成 21 年 7 月 20 日発行

【日 時】平成 22 年 2 月 6 日(土) 13:30~16:30 (開場 13:00)

【会 場】千代田区万世橋区民会館

東京都千代田区外神田 1-1-11 (JR 秋葉原駅電気街口から徒歩 3 分)

【講 師】源 愛日児 氏 武蔵野美術大学教授

【定 員】60 名 (申込順、定員になり次第締切)

【参加費】2,000 円

【申込・問合せ】これ木連事務局 (NPO 日本民家再生協会内 担当: 金井)

TEL: 03-5216-3541 FAX: 03-5216-3542

Eメール: koremoku@e-mail.jp

【締 切】2 月 3 日 (水)

参加者 1 名ごとに、氏名、所属、電話、
ファクス、メールアドレスを明記のこと。

【主 催】これからの木造住宅を考える連絡会

財団法人住宅産業研修財団 優良工務店の会
職人がつくる木の家ネット
NPO 伝統木構造の会
有限責任中間法人 日本曳家協会
NPO 日本民家再生協会
NPO 緑の列島ネットワーク



※次回予定: 3 月、4 月に企画中

■講師プロフィール

みなもと あいひこ
源 愛日児 氏



1951年京都市生まれ。1982年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程にて、古代、中世の寺社建築を中心とする継手、仕口の変遷に関する研究によって、工学博士の学位を授かる。1984年より武蔵野美術大学造形学部建築学科に勤務、現在同大学教授。著書、(ジョイントJ C現代建築の発想j、丸善、1989年)、「在来構法の研究」(共著、住宅総合研究財団、1993年)、「古川町タウントレイル2」(飛騨匠文化館、2006年)など。

.....申し込み.....

(メール申し込みの場合は下記内容を koremoku@e-mail.jp まで)

◆連続講座「伝統構法を考える勉強会」

第6回 伝統構法の位置づけはどこに? 「木造軸組構法の近代化」 に参加します。

氏名:		会社:		所属する 団体等:	
連絡先 TEL:		連絡先 FAX:		連絡先 Eメール:	
氏名:		会社:		所属する 団体等:	
連絡先 TEL:		連絡先 FAX:		連絡先 Eメール:	
氏名:		会社:		所属する 団体等:	
連絡先 TEL:		連絡先 FAX:		連絡先 Eメール:	

FAX 03-5216-3542